

私を支えてくれている人がいる

山形県 糠野目小学校 6年 阿部 みすず

私は小さな親切を、スポ少の大会の日に着きました。

2回戦の試合で、米沢のくぼたという強いチームと対戦しました。その試合で、私はほかの人とぶつかって転んでしまいました。その上、ぶつかる寸前、ボールが頭にぶつかりました。一度に二か所も強打して、とても痛くてなみだが出てきました。でも、そのあと相手チームの子が、

「大丈夫ですか？」

と声をかけてくれました。私は、声をかけてくれた子に、

「大丈夫です。ありがとうございます。」

と答えました。相手チームの子から声をかけられることがあまりなくて、とてもうれしくてなみだが止まりました。

でもその試合は負けてしまいました。最後、相手チームの人とあく手をしたときも、

「大丈夫でしたか？」

と声をかけてくれたので、

「もう大丈夫です。ありがとうございました。」

と答えました。話したこともないのに、気軽に声をかけてくれたので、胸がジーンとしました。

その後、移動しているときに同じチームの子が、

「大丈夫？」

と言ってくれました。そして、帰る時に同じチームの子のお母さんが

「大丈夫だった？」

と声をかけてくださいました。このとき私は、家の人や妹だけではなくて、友達やそのお母さんも自分のことを心配してくれていることを知りました。また、その方々が自分を支えてくれているんだなと思いました。

私は、この体験をきっかけに思うようになったことがあります。それは、たくさんの人々が、ともに支えあい、ともに生きているということです。今まで自分のことだけを考えて、自分の好きなことを好きにしていたと思います。でも、他人のことを考えて行動し、親切をすることが大切だと実感しました。

自分のしたことが、他人にとっては大きなお世話かもしれないけれども、どんなに小さなことでも、ほかの人を思いやり、親切にすることはとても大切だと思います。